

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

Extreme

PRESS by AJPS

[エクストリームプレス]

Vol. **6** 2012
Autumn

特集 **Rugby football**

猛き者たち。

Road to the top

FREE

ご自由に
お持ちください

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

Extreme

PRESS by AJPS

「日本スポーツプレス協会」(Association Japonaise de la Presse Sportive) には、1976年に発足した、第一線で活躍するフォトグラファーとジャーナリスト約170人が所属している。

[エクストリームプレス] 2012.Autumn Vol. 6



[Cover Photo] 築田 純 Jun Tsukida

世界最強のオールブラックスから、昨シーズン一人の男が日本の地に舞い降りた。黒豹のごとく、強く逞しい身体から発せられるオーラは見ている者を魅了した。

2011.11.12、ジャパンラグビートップリーグ 2011-2012、東京・秩父宮ラグビー場、マアノヌー / Ma'a Nonu (Black Rams)、Nikon D3s、AF-S NIKKOR 400mm F/2.8G ED VR、× 1.7倍テレコンバータ、1/1250、F4.8、ISO400、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクト フラッシュカード

<http://www.ajps.jp>

Publishing AJPS (Association Japonaise de la Presse Sportive)
Publisher Akito Mizutani
Editor In Chief Shinichiro Tanaka・Yoshio Kato
Editor Kenji Iimura・Hideyuki Imai・Tetsushi Ono・Aki Kusudo・Kenjiro Sugai・Takamitsu Mihune・Tomohiro Watanabe
Editorial Coordinator Asuka Senaga
Design futuretune

特別協力：財団法人日本ラグビーフットボール協会
<http://www.rugby-japan.jp/>

CONTENTS

巻頭エッセイ Vol.6

W杯がやってくる。

生島 淳 / 文 Jun Ikushima

Moments

猛き者たち。Road to the top

益田 佑一 / 写真 Yuichi Masuda

井田 新輔 / 写真 Shinsuke Ida

高須 力 / 写真 Tsutomu Takasu

Close Up

五郎丸 歩 (ヤマハ発動機ジュビロ / 日本代表)

加藤 康博 / 文 Yasuhiro Kato

井田 新輔 / 写真 Shinsuke Ida

益田 佑一 / 写真 Yuichi Masuda

Impression

楢円の生み出すドラマを克明に切り取る

萩原 利一 / 写真 Toshikazu Haglwara

斉藤 健仁 / 文 Kenji Saito

Moments

猛き者たち。 Road to the top

W杯がやってくる。

生島 淳

2019年、ラグビーのワールドカップが日本にやってくる。いまやオリンピック、サッカーのワールドカップに次ぐ規模を誇るビッグイベントになったが、これまでは北半球ではイングランド、南半球ではニュージーランド、南アフリカといったラグビーの強豪国が開催地となってきた。

しかし、将来的にラグビーがより多くの地域で親しまれるためにも、伝統国以外で開催することが大切というムードが生まれ、日本に楢円球の祭典がやってくることになったのだ。

ラグビーの魅力は、いろんな「キャラ」の選手がいること。高校生の試合を見ていると、試合前からほほえましくなる。体重100キロを超える巨漢がいるかと思えば、50キロほどしかない小兵もいる。ときには50キロの選手が巨漢をタックルで倒すことがあって、そのときの感激はラグビーでしか味わえない。

そしてまた、彼らがボールをつなぎ、トライを取った瞬間の爽快感こそ、ラグビーの醍醐味。そういえば、大学の体育の授業で、先生が「ラグビーはグラウンドに立っていれば、誰にでもボールに絡んで、トライを取るチャンスがあるんだ」と言っていた。最近では女子ラグビーの競技人口も増えてきたし、16年のリオデジャネイロ・オリンピックからは七人制ラグビーが正式種目になって、取り上げられるチャンスが多くなるだろう。

19年に日本代表の選手として活躍する選手たちはいま高校生から大学生になっている。実はこの世代に、有望な選手がたくさんいて、10代で日本代表として活躍している選手もすでにいる。

いまから若者たちが成長を遂げていく様子を、追いかけるのは悪くない。そうすれば、日本で開かれるワールドカップを存分に楽しめるはずだから。

益田 佑一 写真
Photograph by Yuichi Masuda

2007年ワールドカップフランス大会初戦。強豪オーストラリアとの対戦となった試合前の国歌斉唱。戦いの前の静寂。一つになった選手達の後ろ姿が、勇ましく見えた。

2007.9.8、W杯フランス大会、Canon EOS-1D Mark II N、EF 400mm F2.8 L II USM、EXTENDER EF1.4×II、1/1000、F4、ISO200、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム III コンパクトフラッシュカード





益田 佑一/写真 Photograph by Yuichi Masuda

ラグビーの見せ場の一つ、トライシーン。One for All, All for Oneの精神の結実でもある。選手にとっても、ファンにとっても、この瞬間は良いものだろう。2011年ワールドカップ出場権を獲得したこの試合で魅せた日本代表湯原祐希選手のトライ。

2010.5.22、アジア五カ国対抗、Nikon D3s、AF-S NIKKOR 400mm F/2.8G ED VR、1/1000、F2.8、ISO200、ホワイトバランス マニュアル、サンディスク エクストリーム コンパクト フラッシュ カード



井田 新晴 / 写真 Photograph by Shinsuke Ida

2011年ワールドカップ NZ大会の日本代表にも名を連ねたニコラス・ライアン。正確なキックと低いプレーもいとわれない頼りになるベテランプレーヤーだ。

2012.6.10、パシフィックネーションズカップ、Nikon D4、AF-S NIKKOR 400mm F/2.8G ED VR、1/1000、F4、ISO400、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム コンパクトフラッシュ カード



井田 新晴 / 写真 Photograph by Shinsuke Ida

トンガの勇ましいディフェンスに阻まれつつもボールをキープする日本代表有田義平。

2012.6.10、パシフィックネーションズカップ、Nikon D4、AF-S NIKKOR 400mm F/2.8G ED VR、1/800、F3.2、ISO1250、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム コンパクトフラッシュ カード

猛き者たち。



高須 力 / 写真
Photograph by Tsutomu Takasu

夏至を翌日に控えたある日、外苑前駅を出て空を見上げたら、紅く染まり始めていた。夕焼けの一生は短い。運動不足を呪いながら秋父宮まで走った。

2012.6.20、リボビタンDチャレンジ2012、Canon EOS-1D Mark IV、EF16-35mm F/2.8L USM、1/125、F8、ISO800、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



高須 力 / 写真
Photograph by Tsutomu Takasu

スクラム。100キロを超える大男たちの意地の張り合い、ガシッ！ 痛そうな音が聞こえてくる。ラグビーの見どころの一つだと思う。

2012.8.31、ジャパンラグビートップリーグ 2012-2013、Canon EOS-1D Mark IV、EF400mm F/2.8L IS II USM、1/1000、F2.8、ISO3200、ホワイトバランス マニュアル、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



井田 新輔 / 写真 Photograph by Shinsuke Ida

五郎丸 歩

ヤマハ発動機ジュビロ / 日本代表

五郎丸 歩 (ごろうまる あゆむ) 1986年3月1日生まれ、福岡県出身。3歳でラグビーを始め、佐賀県立佐賀工業高校では3年連続で全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場。早稲田大学でも1年からレギュラーとして活躍し、大学日本一を経験している。現在ヤマハ発動機ジュビロに所属。ポジションはフルバック。飛距離のあるブレスキックが持ち味で、ジャパンラグビー トップリーグ 2011-2012の得点王・ベストキッカー賞に加え、ベストフィフティーン (ポジション別最優秀選手賞) の個人タイトル3冠を獲得している。

加藤 康博 / 文 Text by Yasuhiro Kato

五郎丸歩・26歳。高校時代は3年連続で全国高等学校ラグビーフットボール大会、通称「花園」に出場。早稲田大学進学後は19歳にして日本代表に選ばれ、大学日本一も経験した。紛うことなき日本ラグビー界のスターは今、円熟の境地へと足を踏みいれようとしている。今、日本ラグビーは変革の時。その中において185cmの体軀からは静かな闘志が陽炎のようにゆらめき立っている。

とにかく絵になる男だ。

エリートとして早くから将来を嘱望された選手だが、寡黙かつ冷静沈着、それでいて激しいプレーも厭わないハードワーカーでもある。強い意志をのぞかせる精悍な顔つきもいい。最近、そこに“色気”が出てきたとは、ラグビーの記者仲間の言葉。語るまでもなくそれはベテランとしての味であり、人間的な成熟を指す。

その“色気”は順風満帆ではない競技人生によって醸し出されてきた。

大学卒業後、トップリーグ、ヤマハ発動機ジュビロに進んだが2009年11月に会社側は強化の縮小を発表。多くの部員が去り、翌シーズンは入れ替え戦に回る屈辱も味わった。

五郎丸を欲しがるとは他にあったが、本人は残留を決断。プロ選手から社員へと立場の変化も受け入れている。

加えてその後は日本代表にも呼ばれたり、呼ばれなかったり。まだワールドカップには出場したことがない。

「チームに関しても自分自身のプレーに対しても悩んだ時期はありました。でもこのヤマハで強くなっていくと決めたからには、その軸をブレさせたくなかった。今は残留して良かったと思っています」

天はそんな五郎丸を助ける。

チームはその後、強化を再開。昨年からは大学時代の恩師であり、早大で3度の大学日本一を成し遂げた清宮克幸を招へい。チーム、そして五郎丸にとって浮上のきっかけが整った。

今春から日本代表にも復帰した。新たにヘッドコーチに着任した世界的な名将、エディー・ジョーンズは五郎丸を副将として指名。新生日本代表のけん引役として、期待を寄せている。

今は成長できている実感がある。
まだまだ自分はこれからです

益田 佑一 / 写真 Photograph by Yuichi Masuda

「エディーさんは最初のミーティングで、“2015年W杯で世界のトップ10入りを目指す”と言ったんです。それを聞いた瞬間、そんなに簡単じゃないだろうと思ったのですが、そのために必要なことがしっかり計画されていて、ものすごく説得力がある。今は、目標が達成できると確信しています」

日本代表を取り巻く環境は決して楽観できない。

昨年のW杯は予選リーグで1分け3敗。それどころかこの舞台で20年間、ひとつの勝利もないのだ。2019年にW杯自国開催で日本がさらに上の世界トップ8を目指すには、これからの7年間は片時も無駄にはできない。

今、日本のラグビーに求められるのは個々の能力の向上、そしてスタイルの確立である。春から夏にかけて、日本代表の合宿は多い時には1日4回の練習を行った。かつてないハードなメニューだが、五郎丸はそこに手ごたえを感じたようだ。

「まずチームが前向きです。これまで日本代表の中心には多くの外国人選手がいました(※)。しかし今は日本人中心。コミュニケーションもとやすいし、何より日の丸の責任を全員が実感していますね。練習はキツイです。でもキツくないんです。変な言い方ですが、成長できている満足感、チームが強くなっている実感が体のキツさに勝っている感じ。だから充実しているんですよ」

もう日本代表の座は譲れない。ポジションはフルバック。フィールドの最後尾に位置し、守備の最後の砦になると同時に、攻撃ではフィールドでの指揮者として仲間に指示を出し、自らもパスやカウンターの起点になる。ゲームの流れを読み、周囲をコントロールするポジションだけに経験が重要な要素だ。

加えて五郎丸にはブレスキックという武器がある。時に50mを超えるキックでポストの間を通すその技術とパワーは大きな魅力だ。

8月末にはトップリーグも開幕した。

社会人5年目。これまでは何を考えるうへでも「チームのため」が第一義だった。どんな選手になればチームに貢献できるのか、どんなプレーをすればチームは勝てるのか……。しかし今年はそのにも変化が生まれている。

「今年はチームを考える前に、自分自身を第一に考えます。課題としているスピードアップはもちろん、すべてのプレーで一段上のレベルに自分がたどり着くことを目指す。そうすればきっとこれまで以上にチームに貢献できるようになるはずですよ」

多くは語らない。まずは見て欲しいと思っている。

「まだまだこれからですよ」

その通り。五郎丸の真価が発揮されるのはこれからである。

※ラグビーではその国に3年間居住していれば外国人選手でも代表としてプレーする権利を得る。



パスを出した瞬間を狙ったコマ。ラグビーは動きを予測するのが難しいスポーツだが頼もしい器材のおかげで撮影に集中できる。自分も選手とともに闘っているような気持ちでシャッターを押した。

2012.9.7、ジャパンラグビートップリーグ 2012-2013、Canon EOS-1D X、EF400mm F/2.8L IS II USM、1/1000、F3.2、ISO2500、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



サンディスク
エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュ カード 128GB

転送スピードが遅いと、トライシーンまででバッファがいっぱいになってしまい、その後のシーンが撮れない恐れもあるという。だが、今は安心してシャッターを押し続けることができる。また転送スピードだけでなく、容量が増えた利点を萩原氏はこう語る。

「僕はスポーツを撮るときRAWで撮影することが多い。EOS-1D XだとRAWだと1枚で30MBくらい。ラグビーの場合は試合展開にもよりますが、128GBあればRAW+JPEGで撮っていても十分に足りるはず」

4月に開催された、2016年のリオデジャネイロ五輪から正式種目となった「セブンス」こと7人制ラグビーの国際大会「HSBC セブンスワールドシリーズ東京セブンス」の初日は嵐の中の開催となった。だがCFカードの容量が多いためにメディア1枚で撮りきれたという。「やっぱり雨や埃の中でCFカードを換えたくない。朝から夕方までずっと撮影していても1枚で足りましたね」と萩原氏。

流し撮りが好きだという萩原氏は、ラグビーは「作品作りに向いている」と語る。ルール上、ラグビーは前に投げることはできないが、前進してトライを狙うスポーツだ。

「ラグビーは前に進むだけでなく、横にパスをしたり動いたりするシーンも多い。そういった場面は、スローシャッターに

よる流し撮りに向いているんです。だから撮影するのが好きなスポーツの一つです」

またラグビーを撮るときは一種の高揚感にも包まれるという。

「ラグビーは格闘技に通じるコンタクトスポーツ。撮影する側も気合いが入って、まるで被写体を圧倒したいような気分、『撮ってやるぞ』という気持ちになるんです」

「[サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード]とEOS-1D Xを使ったら、プロとして言い訳はできません」と萩原氏。最高級の器材とCFカードで、日本最高峰のラグビーである「ジャパンラグビートップリーグ」の決定的瞬間を切り取り続ける。



萩原 利一 (はぎわら としかず)
1968年、静岡県生まれ。サラリーマン時代からモーター・スポーツ撮影がライフワークになり写真の世界にのめり込む。2003年にフリーランスとなりスポーツ全般へ撮影の幅を広げる。現在は自転車やトレイルランなど野山を駆け回る撮影が多い。また機械オタクでもありカメラ雑誌等でインプレも手がけている。

プロカメラマンが選ぶ〈サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード × Canon EOS-1D X〉

楢円の生み出すドラマを克明に

萩原 利一 / 写真 Photograph by Toshikazu Hagiwara 齊藤 健仁 / 文 Text by Kenji Saito

信頼の置けるメディアが作品の幅を広げる

2003年からラグビーやサイクリングといったスポーツシーンで活躍するフォトグラファーの萩原利一氏。プロとしてコンパクトフラッシュカード(CFカード)などメモリーカードに望むのは「まず信頼性です」と語気を強める。

「カメラがデジタル化した2000年頃から、サンディスクのカードをずっと使用しています。メディアとしての信頼性がすごく高い。サンディスクのCFカードだと安心して仕事に集中できる」

デジタルカメラは近年、さらに画素数が大きくなり、1秒間に撮れる枚数も増えている。キヤノンでもEOS-1D Mark IVからEOS-1D Xとなり、画素数は

1610万画素から1810万画素に増え、連写撮影も10コマ/秒から14コマ/秒に進化した。それに対応するかのようになり、「サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード」の128GBが発売。128GBという大容量ながらUDMA7に対応しており、最大100MB/秒の転送スピードも両立する。萩原氏も「CFカードの容量の増え、転送スピード

切り取る

が上がることは大歓迎です！プロとして撮影の幅が広がりますから」と声を弾ませる。

例えばラグビーの撮影だと「トライシーンまでのパスワークなどの流れ、そしてトライシーン、トライ後にチームメイト同士で喜んでいるシーンもしっかりとカメラに収めたい。個人的には大事にしている瞬間です」と萩原氏。

使っているだけで「さすが」と思われる
 メモリーカードは少ない。

カメラの性能を最大限に引き出す、
 最大95MB/秒*1の超高速データ転送。

究極のSD™カード、サンディスク エクストリーム® プロ™ シリーズ



最大 90 MB/秒
の書き込み速度

最大 95 MB/秒
の読取り速度

サンディスク エクストリーム® プロ™
 SDXC™ UHS-I カード 64GB

サンディスク パワーコア™ コントローラ搭載

[信頼性] インテリジェントなデータ管理を可能にする、業界最高水準のエラー訂正コード

[UHSスピードクラス1]** フルHD動画^③の撮影にも最適な、UHSスピードクラス1に準拠

[究極のスピード] 最大95MB/秒の超高速データ転送を実現

[耐久性]** 防水、温度、衝撃、X線などの過酷なテストをクリアし、極限の状況下でも正確な動作を実現

[長寿命] ウェアレベリング技術により、データの保全とカードの寿命を最大化

[テクノロジー] サンディスク独自のパワーコア™ コントローラにより、効率的かつ迅速なデータ処理が可能

[大容量] 最大64GBまでの大容量で、高速連写による膨大な画像データや、フルHD動画も余裕で保存

[絶対の自信] 絶対の自信に裏付けされた、無期限保証^⑤付き



サンディスク イメージメイト®
 オールインワン USB3.0 リーダー/ライター

超高速性能・大容量
Extreme Series
 エクストリーム シリーズ

サンディスクはプロカメラマンの82.4%*から「安心のブランド」と評価されました。*2010年7月当社調べ。詳細は当社Webにてご確認ください。http://www.sandisk.co.jp/leader

サンディスクはフラッシュメモリーカード世界*・国内**シェアNo.1ブランドです。

サンディスク

検索



* 2010年Gartner調べ (Gartner Dataquest No. G00211897 03/25/2011)。** GfK Japan調べ (国内の有力家電量販店販売実態調査/2011年)。① 最大読取り/書き込み速度の数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。ホスト機器によって読取り/書き込みの速度は異なる場合があります。② UHSロゴは、HD動画を最速に録画するためのスピードを有するUHSスピードクラス1を意味します。③ フルHD動画(1920x1080x30fps)、HD動画、3D動画のサポートについてはご使用の機器、ファイルサイズ、解像度、圧縮率、ビットレート、動画内容、その他の状況に依存します。④ 詳細は当社Webにてご確認ください。http://www.sandisk.co.jp/Corporate/proof/ ⑤ 保証内容に基づきます。ドイツ及び無期限保証を認めていない地域においては30年保証。1.1メガバイト(MB)=100万バイト、1ギガバイト(GB)=10億バイト。記載された容量の一部はフォーマット及びその他の機能に使用されるため、すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。2.機器によっては、SDXCカードやUHSに対応していない場合があります。詳細は機器のメーカーにお問い合わせください。3. SanDisk、SanDiskロゴ、SanDisk Extreme、サンディスク エクストリーム、SanDisk Extreme Pro、サンディスク エクストリームプロ、イメージメイト、及びパワーコアは、米国及びその他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。SDXCのマーク及びロゴはSD-3C LLCの商標です。その他の商標も特定の目的のために使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。